

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和四年十二月句会(第二二七回)

兼題 「クリスマス」

開催日 令和四年十二月二十四日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 八名

投句者・選句者 八名

(二点句)

クリスマスたつての願ひ聴き遂げる 互酬
 読みかけの本をまた閉じ日短か 則子
 寅さんの帰り来さうなクリスマス 互酬
 枯庭の遺る灯籠ふんばりぬ 寿歩
 並べ家族四人のxマス 玄鳥

(一点句)

クリスマスはニュルンベルクのマーケット 小牧
 被弾するキーウの空にクリスマス 玄鳥
 クリスマス望み給ふか電飾を 寿歩
 座布団で師走の一日猫あくび 則子
 公園のベンチに白し朝の霜 夢心
 待ち待ちて早く会いたし帰り花 互酬

(五点句)

● 年毎に手抜きとなりぬ年用意 徹心

● 選評：子供達も夫々の家庭を持って家を離れ、老夫婦だけの世帯になり、年賀の来客も少なくなつてくると、新年を迎えるための用意にも張合いがなくなつてくる。松飾りが印刷の紙になり、鏡餅がプラスチックに収まり、お節料理は重箱詰めの出合いに替わつたりする。手抜きと云えば手抜きだが、高齢化に伴った実状を巧みにとらえている。(夢心記)

● 冬涛の上に鎮座す佐渡ヶ島 艸寛

● 選評：私は日本海も佐渡島も見たことはありませんが、日本海の荒々しい冬の波とそこに在る佐渡島が鮮明に浮かびました。「鎮座す」の表現に、日本海という広大な場所に揺るぎなく存在する佐渡島、なんとスケールの大きな句でしょうと感心いたしました。季語の「冬涛」が小道具となり「鎮座す」をいっそう引き立てていると思いました。新潟からみた佐渡島を詠んだ句と聞き、合点いたし、実体験は何ものにも勝りません。

「冬涛」の読みは、『とうとう』ではなく、辞書・辞典に当たると『ふゆなみ』と読むのが正しいようだと思われ指摘がありました。波の厳しさを感じるために敢えて『とうとう』と読みたいなと思いましたが、今は『佐渡島』と表記されるようとの指摘もありました。

(寿歩記)

(三点句)

クリスマス日溜まりは良き贈り物 則子
 枯庭に華やぎ添えて花八つ手 夢心

(投句)

クリスマス教会堂の深夜ミサ 夢心
 聖誕祭非信者なれど寿げり 徹心
 クリスマス年々高価の贈り物 艸寛
 凍てつくや停電続きのウクライナ 寿歩
 聖誕祭マリア様にも杯を挙げ 徹心
 最近七難隠す黒マスク 互酬
 蔑(ないがし)ろしたきコロナ禍再師走 互酬
 焼芋とワイドショーとの昼餉かな 小牧
 「戦」の年日記の余白思ひあり 小牧

『句会后記』

句会は出席八名、二四出句で安居(玄鳥)の進行で行われた。恒例通り、高得点句作句者の自解と選句者が選句理由を述べ、その他の会員の意見が交換された。このプロセスは順次全投句に対して為された。使われている語句よりも意味から考えて、こういう語句(あるいは文字)の方が良いのでは、語順を逆にした方が良いのではという意見や語句(情景)に関する蘊蓄もあり、いつも通り瞬く間に濃密な2時間が経過したのでした。

その後青木世話人から会員の松井氏が体調の都合で残念ながら退会する旨が告げられ、菅原氏の句集十号制作に関する中間報告がなされ閉会となった。

最後に、「ゆずりは」句会を立ち上げた漆野氏が体の不都合により退会する事になったが、小牧(小西)作の惜別の句を記す。

「立ち上げし友の退会桐一葉」

(徹心記)